

茶事同好会 桑遊会



茶事の上達には「習うより慣れろ」と言われます。桑遊会は、茶事上手を目指すも仲間が、実践経験を積みながら相互に学びあう同行会です。

- ✔ 茶事を学ぶ茶事教室でも、懐石料理教室でもありません。
- ✔ メンバーが輪番で亭主・半東・正客・詰客を勤めます。
- ✔ 懐石道具、茶席の道具は獨楽庵常住をつかいます。
- ✔ 炭点前、亭主迎付け、席入を実践することができます。
- ✔ 1組4名。1期12回を基本単位とします。

教室ではなく「同行会」

茶事の知識を一方向的に伝える教室ではありません。参加者が試行錯誤の中で茶事の流れを体得し自分ならではのスタイルを発見できることを期待しています。

亭主と半東は協力して茶事を運営します。懐石の準備はもちろん、露地・茶室を整え炭に火を入れて湯を沸かし、お客様を迎える準備を整えることも亭主・半東の役割です。正客・詰客は客作法を身につけると同時に、亭主・半東の動きを観察し、的確にフィードバックすることが求められます。

一汁三菜の懐石

今日一般的に開催されている茶事は、懐石の品数も多く料理も手がこんでいて、初心者が気軽に開催できるものではないと考えてしまうのが常です。利休に回帰した一汁三菜を提唱し、「獨楽庵茶会」も一汁三菜を基本としています。

桑遊会でも一汁三菜に止めることにより準備の負担を軽減し、その分茶事を俯瞰した経験を積むことを重視しています。

一汁三菜とは：飯、汁、向付、煮物、焼物、香のもの、湯桶 で構成されます。

獨楽庵常住の道具

獨楽庵では日常的に、茶事・茶会を開催していますので、懐石道具や茶席の道具は常住のものを利用し、道具運搬の負担を最少にとどめることができます。もちろん、お手元のお気に入りの道具を組み合わせることも可能です。

炭点前、亭主迎付け、席入などの実践

稽古場の設備や人数による制限などで、炭点前を実践する機会が限られてきています。獨楽庵では常に炭を使っていますので、「桑遊会」の亭主役は茶事の一環として炭点前を実践することができます。炭、炭道具、灰などは獨楽庵常住を使用します。

亭主迎付け、席入の実践には露地が必要です。「桑遊会」では、露地、腰掛け、蹲を使った席入の経験を積むことができます。露地を整え、蹲を準備することは亭主の重要な役目の一つです。

桑遊会の運営

桑遊会は原則4名で進めます。メンバーは亭主・半東・正客・詰客の役目を輪番で勤めます。一期12回ですから、メンバーは各役目を3回ずつ経験することになります。

懐石の準備は亭主の役割です。材料代は、集めた参加費の中からお支払いします。

参加費 友の会会員 5,000円、非会員7,000円

開催日は、メンバー間の相談で決定します。

【タイムテーブル（例）】

10:00 亭主・半東 準備開始

12:00 正客・詰客腰掛けへ移動

亭主迎付、正客・詰客手水を使って席入

12:15 亭主挨拶～炭点前

12:30 懐石

13:30 中立 亭主・半東茶席準備

13:45 亭主銅鑼、正客・詰客後座入

14:00 喫茶

15:00 まとめ、フィードバック

4名1組

桑遊会は4名1組を原則とします。第一期に続くチームは、参加者が4名揃った時点で発足します。開催日はチームメンバーで相談して決めます。

一期12回を基本単位としますので、12回全てに参加可能な方を求めます。

詳しくはホームページをご参照ください。

www.dokurakuan.com/soyukai

